

アマダイ通信NO. 112

(Tile fish network letter) 2016年 桐の花紫に

知人・友人各位

5月の連休、1日から8日まで、初めてのニュージーランドツアー。世界を色々旅したが、限られた日数、地域の旅とは言え、ホームレスや物乞いの類を全く見かけなかったのは今回が初めて。昨年夏、ニュージーランドの隣国、同じイギリスの植民地だった資源大国オーストラリアでも、シドニーで数人のホームレスを見かけた。本人は勿論辛い、ホームレスを見るのも辛い。戦争や紛争、貧困が地上からなくなり、誰もが屋根の下で過不足なく暮らせる、そんな世界が早く実現して欲しい。

◎祝国交回復！オバマとラウル、二つの人権

アメリカとキューバが国交を回復、アメリカのオバマ大統領がキューバを訪問、その際キューバのラウル・カストロ議長との人権論議が面白かった。オバマはキューバには表現の自由も政治的自由もない！人権を保障しなさい！民主化しなさい！政治犯を釈放しなさい！と呼び掛ける。ラウルはキューバに政治犯はいない。アメリカこそ人権を保障しなさい。アメリカは医療費が高いのに公的医療保険制度がないので、貧乏人は病気になっても医者にかかれない。教育に金がかかり貧乏人は十分な教育を受けられない。金持ちと貧乏人の格差がひどく、拡大再生産、ホームレスも多い！キューバは医療も教育も無料、女性も平等に働き、ホームレスもいないと胸を張る！

もっぱらオバマは表現の自由や政治的自由などの、17、18世紀、資本主義が勃興した時代の、イギリスやフランスのブルジョアジー(資本家、市民)による、絶対王制からの解放、国家権力からの自由を求めた市民革命によって勝ち取った古典的人権、自由権を主張する。ラウルは19、20世紀にかけ、資本主義の成長と共に大量に産み出された労働者階級が、自らの生存と人間らしい生活を求め、資本主義の弊害の是正を目指した時代に勝ち取った生存権や労働権、教育を受ける権利などの社会的人権を主張する。

人権のメニューに最近では環境権なども加わる。それぞれの主張する人権が全て保障されればベストだが、不十分だから非難合戦になる。両方バランスよく保障されているのはフランス、ドイツ、オーストリア、スイスなどの大陸ヨーロッパ、取りわけ北欧諸国とニュージーランドなどだ。それらの国では表現の自由や政治的自由は勿論、年金や失業保険、医療保険などの社会保障も充実、教育も大学まで無料だ。

翻って日本はどうか？表現の自由や政治的自由、法の下での平等などの古典的な自由権は一応保障され、教育を受ける権利、勤労権、文化的で人間らしい生存をする権利などの社会的人権も憲法は規定する。義務教育は無償、働けない人には生活保護、失業保険や国民が医療保険や年金保険、介護保険に加入、医療や年金、介護制度を享受する。しかし、それらの制度は不十分で、大陸ヨーロッパとアメリカの間だ。東西冷戦体制が崩壊、体制間競争に決着がつくと小泉政権が登場、「構造改革」と称し、あらゆる面で自由競争を進める。安倍政権になって弱肉強食の傾向を更に強め、格差が拡大する。日本はアメリカ化しつつあるが、目指すは活力ある、中間層の厚い、安全、安心な福祉社会ではないのか!!

◎不動産営業第一号！？

3月17日に宅地建物取引主任士の講習を終え、宅建取引主任士証も頂く。不動産業を始めるにはこの主任士証が必要だが、試験に合格して30余年、登録は3回目。50歳で営業コンサルタントを起業、建築関係のメーカー営業を主にお手伝いして20年近く、「建築営業の大元は土地情報」と思うも、コストに見合うだけの成果を得られるか？多少心許無く、前2回は結局開業しなかった。今回も手続き書類の作成が面倒で、予定の登録後2か月を経過しても不動産屋に変身出来ていない。前回に比べても、営業支援先、営業先共に範囲も広がり、層も厚くなった。大元の土地情報に直にアクセス出来れば、それだけ多くの方々に、より効率的にお役に立つことが出来る。これまでお願いするだけだったデベロッパーなどの発注者、設計事務所、ゼネコンなどの施工業者にも多少恩返し出来る。

3月23日、125回目の東大三鷹クラブの大阪での講演会は、田村堺市副市長(S38年入寮、元大阪府土木部長)に講師をお願いする。その前にJR西日本の事業開発本部に顔を出す。高校の後輩で不動産業を営み、業界団体の役員なども歴任、顔の広い、能代高校東京同窓会の菅原前会長が、金沢駅前、築浅のホテルの買い手はいないかという。インバウンドの増加でホテル不足が叫ばれる昨今だが、宿泊特化型ホテルは別として、バンケット部門のあるシティホテルは中々買い手がつかないようだ。JR西日本は京都、大阪、広島、岡山、和歌山にホテルグランヴィアを持つが、金沢にはない。だが、宿泊特化型のホテルには興味があるようだ、バンケットもあるホテルは難しそう。デパートやスーパーが、専門店や量販店の台頭で経営が厳しくなっているように、専門の結婚式場の台頭と少子化で、シティホテルの宴会場の経営も難しくなっているのだろうか？

菅原君は他に本郷に土地が2件あるとのこと、1件は全国で2万人近くの学生を抱える専門学校につながり、250坪では土地が大き過ぎるという。もう一件は、懇意にしている設計事務所にラフな絵を画いて貰った上で、これも2万人ほどの学生が居住する食事付き学生会館を運営する会社に紹介するが、本郷は東大だけでなく、お茶の水の東京医科歯科大や順天堂大、それに明治大学なども近く素晴らしい立地だと乗り気だ。開業前から嬉しい話だが、このところの地価上昇傾向に地主は強気なので、折り合えるかどうか？

成果は大きい確率の少ない不動産仲介の狩猟採集民的ビジネス。実入りは少ないが、確率の高い農耕民的ビジネス、「萬営業顧問業」とバランスを取り、相乗効果を図れるか？施主のプロジェクトの実現に貢献出来れば、設計者、施工者の選定に関わることも出来、顧問先のメーカーの製品を設計に織り込んだり、施工者に優先使用して貰える。不動産情報を仲介して貰えれば資格なんて要らないですよ！とも言われるが、事実上仲介したが、億円単位の手数料は顧問先の取引先の銀行系列の不動産会社が間に立つ形で、その不動産会社に支払われたということもある。不動産業を開業する手間を惜しんではいけない！

◎お握りからリニアまで

桜の季節に新宿駅南口のバスターミナル、バスタ新宿がオープン。少し遅れて、商業施設のLUMINEが15日にオープン、顧問先の大阪の米屋菊太屋もその一角、新南口改札の中に「米屋のおにぎり屋」を出店、顔を出す。念願の東京の巨大ターミナルでの出店だが、東京駅や品川駅と違い、新幹線などの長距離列車の発着はあずさしかなく、オフィスワーカーの朝食とランチ需要が主で、どこまで売り上げを伸ばせるか？

京都駅のコンコースに面した伊勢丹の店や、新大阪駅のコンコースの店は5坪の面積で毎月軽く1千万円を上回る売り上げだ。バスタ新宿にはいずれ1日千6百台の長距離バスが発着する。今の長距離バスにはサービスエリアでのトイレ休憩の時間を惜しみトイレがついているので、飲食物はここで買うしかない。開店の金曜日に続いて、2日連続激励に。代々木駅方面の鉄道の景観も素敵な新南口は、凄い人出。30、40代の働く女性がターゲットで、お握りも小振り。150円前後が主と値段も小振りな新しいお店。お茶と一緒に故郷の白神山水も売って貰うことに。長距離バス客が増え、売り上げが伸びると嬉しい。

5月の連休明け、JR東海の担当のご紹介で、大成建設の南アルプスのトンネル工事の現場に、鉄鋼商社の阪和興業、土壌処理のアムスエンジニアリング、仮設大空間テントのトータル環境の、顧問先3社を同行、新技術、製品の提案営業。先ず新宿駅で御飯のお握り2個と焼き鮭のセットとたらこのお握り1個を買い、特急あずさに乗車、新緑の甲斐路を走り腹ごしらえ。魚沼産のこしひかりのお握りも美味しいが、焼き鮭が絶品。5月の連休のニュージーランドの、収穫を終えたばかりの葡萄畑の黄葉も綺麗だったが、甲州葡萄も盛んに若葉を伸ばし、菜の花も桐の花の紫もいい。紅葉と新緑が頭の中で一つになる。

総合商社がかつて、「ラーメンからミサイルまで」と、営業種目の広さを称されたが、一人商社！？🐟も世界を駆けて情報発信、「お握りからリニアまで」お役に立てると嬉しい！

◎地震と井戸・・・🐟の水商売

熊本の地震から一カ月経過、震災からの復興も緒について来たが、今回も電気、ガス、水道などのライフラインが破壊され、被災者の皆さんは厳しい避難生活を余儀なくされる。熊本の水道は阿蘇の豊富な伏流水を井戸で汲み上げるので、安くて美味しい。井戸は地盤と一緒に揺れるだけなので、水源は壊れにくい。ただ、浄水場から長い管路で配水されるので、配水管が切れたり、その恐れがあれば断水する。断水すると再開に時間がかかる。

一般家庭もだが、水がなければ病院では手術はおろか、給食も出来ない、トイレも風呂も使えない。とりわけ人工透析には大量の水が必要で一番困る。そこで大学病院等の拠点病院や帰宅困難者の避難所になる駅ビルやホテル、デパート、大型ビル等に、電源開発のリスクと費用で深井戸を掘り、膜濾過等の浄化設備をつくって水源を二重化、お客さんに安く水を供給する、井水利用専用水道システムが威力を発揮する。

熊本の地震と前後、阪大病院で、🐟が手伝う電源開発の井水利用専用水道システムが始動した。水道料金を削減出来るだけでなく、万が一、震災などで電気や公営水道が止まっても、非常用電源があれば井水を利用、病院機能を維持出来る。災害時に拠点病院がその機能をフルに発揮でき、近隣の住民の方々に生活用水まで供給出来るので心強い。新規にガーデンテラス紀尾井町(旧赤坂プリンスホテル)とJR西日本の和歌山駅ビルのホテルグランビアでも電源開発の井水利用専用水道システムがオープンする。いずれも🐟が水先案内人の役割をさせて頂いた。興味のある方はご一報頂ければと思います。

🐟のオーストラリア紀行Ⅲ・・・

(‘15.8.8～14、クラブツーリズム「オーストラリアの休日7日間」)

⑥異国の景観に故郷を想う

ケアンズは日本から一番早く到達出来るオーストラリア、いわば北の玄関口。世界最大のサンゴ礁、グレートバリアリーフと世界最古の熱帯雨林を体験するツアーの拠点、そう言えば前日、サーファーズパラダイスの邸宅街を散策した時、人工のクリークに糸を垂れる男がいて、糸の先に、春秋の魚釣りシーズンに🐟を悩ませた小さなクサフグが群れているのを見て、微笑んでしまう。人工的に幾重にも穿たれた運河だが、海水が入り込み、赤道の反対側でも白神の海と同じクサフグが、目指す獲物より先に餌を取って、🐟と同じように釣人を悩ませる！4日目は先ずキュランダ観光鉄道で、ケアンズ北西25キロ、海拔380mのキュランダへ。かつて鉱山で採れた錫を運ぶためにつくられた山岳鉄道だが、錫が採れたのは遠い昔、今は人気のレトロ観光鉄道。34キロを1時間45分かけてゆっくり進む。道中15のトンネルを抜け、37の橋を渡る。市街地の遮断機のある踏切をいくつか渡ると、穂のついた背丈の大きいススキ野が一面に広がる。砂糖きび畑だという。砂糖きび畑が終わると鬱蒼としたユーカリの森の中を進む。5,600種あるユーカリの中でも、コアラが食べるのは10種くらい。ストーン・クリーク滝、バロン滝等の絶景を通過。最大標高500mの山中には、海を展望する高級別荘地が点在する。

山中を走る鉄道の絶景という点では秋田、岩手県境の八幡平を越える秋田新幹線も中々のものだ。冬の処女雪、春の新緑、夏の濃い緑、秋の紅葉、それぞれの美しさ。透き通った川面を時に白く、時に若草色に、時に碧く、紅く染め、安らぎをのせて流れる豊かな清流。山と水の織り成す景観の美しさでは、キュランダ鉄道よりもこまかに軍杯をあげたい。海と山の絶景という点では、秋田、青森県境の世界遺産、白神山地と日本海の間を縫って走る五能線に優るものはない。異国でも遠い故郷を想うのは、白神山地と日本海の間に生まれ、その恵みを存分に受け、伸び伸び育った野生児🐟、海山彦の性か！

ヒッピーが住み着いて開けたという、世界遺産の熱帯雨林に囲まれたキュランダ村には芸術家が多く暮らし、工芸品を売るマーケットがある。ケアンズの駅もそうだったが、キュランダの駅もレトロな感じで素敵にデザインされ、併設されたカフェも客が多い。工芸品店の奥のレストランでOZバーガーの昼食。1杯5ドルの4Xビールを2杯飲み、トイレへ。中国と違ってトイレは並べて綺麗だが、勿論ウォシュレットまではついていない。男子トイレの半分くらいには朝顔がない。かつての日本の学校や駅、公共施設のトイレのように細長い溝を切っただけだが、ステンレスで覆われ清潔だ。バスで1時間ほどでケアンズに帰る。自然豊かな環境を求めてキュランダに住み着き、ケアンズに通勤する者もいるという。

⑦海の綺麗さに想う

キュランダからバスでケアンズの港へ直行。高速の双胴船で45分のグリーン島へ。ケアンズの港には大小無数のヨットやクルーザーが係留され、小振りな貨物船も停泊。青い空には白いカモメが優雅に弧を描いて飛び交い、碧い海に白い船がたゆたう。そのコンストラクトが美しい。北欧のフィヨルドでも、ギリシャとトルコを隔てるエーゲ海でも、カルタゴの夢を膨らませたチェニジアの地中海でも、港の美しさはバリエーションのある青と白の対称にある。若山牧水は「シラトリは悲しからずや、空のアオ、海のアオにも染まらず漂う」と詠んだが、旧ユーゴスラビアの地中海に屹立する城塞都市、ドブロブニクの集合住宅の屋根の先端の風見鶏に停まるカモメと、その向こうの蒼が何と目に沁みたことか。

双胴船の2つのスクリューが蒼い海の水をかき立てると、吹き込まれた空気が泡をつくり、白いうねりとなって、美しい航跡を描く。白いうねりが蒼い波となる先、昨夕散策した浜辺の対岸を見ると、青いユーカリの林の前景に背丈の低い黄緑の林。緑の若葉を体1杯纏ったマングローブの林だ。このマングローブの実が対岸に流れつき発芽した訳だ。

双胴船のつくる青と白のうねりが小さくなると、グリーン島。江ノ島ほどもなさそうな緑の島に突き出た栈橋に船が泊まる。本土から離れて、ひっそり麻薬取引をするためにつくられた港らしいが、今は観光一色。25人のツアーメンバーはガラス底の船から水中の景色を楽しむ組と、シュノーケルと足ヒレで水中散歩を楽しむ組に分かれ、素潜り名人の●は水中散歩組に。外気温22度というが、陽射しもあり寒さは感じない。慣れないヒレの使い勝手がわからず、クルクル回転している内に珊瑚を1つ蹴飛ばして壊し、気がつけば珊瑚で膝を擦りむいている。機上から見れば旅情を誘う碧い珊瑚礁も、潜ってみれば白神の夏の海の方が水が澄んで綺麗な感じだが、折り重なるテーブル珊瑚や丸く大きな色とりどりの珊瑚、イソギンチャクのように触手を揺らし餌を捕まえる大きな珊瑚の類いは、北の海にはいない。少年の頃、餌を待つイソギンチャクの口に指を突っ込むと、潮を吹いて口を閉じ、指が締め付けられるのが面白くて、イソギンチャクを次々襲ったものだが、巨大なイソギンチャク珊瑚に悪戯しようものなら、手まですっぽり食べられてしまいそうだ。巨大イソギンチャクの悪食を恐れるからか、あいにく珊瑚の群れ近くには魚が少ない。少し深い栈橋の下に行くと、青い色をしたコブダイや、イシダイのような縦縞模様の魚、マツカサウオのような見たことのない南の海の魚が群れ泳ぐ。海の綺麗さは水の綺麗さ、夏の白神の透明な海を、耳を下にして、体を透き通らせ泳ぐ、マイカの群舞ほど、神秘にして美しい魚の姿は見たことがない！シュノーケリングを一通り楽しんだ後、2つしかないシャワーを順番待ち、海水を洗い流し、7ドル払って入れる時に苦労した、日本語表示もあるコインロッカーの着替えを取りだし、海水パンツに替えたのと逆の手順でトイレで着替え。周りはスキューバダイビングを楽しみ終えたチャイニーズで一杯。4時半くらいに、来た時と同じ高速船でグリーン島を後にする。

ホテルに専用バスで戻り、前日は「洪水」で大騒ぎだったバスタブにゆっくり浸かり、歩いて近くのホテルのレストランで、OZ ビーフのステーキで4X ビール9ドルを2杯と7ドル50セントの白ワインを1杯楽しむ。人手不足からか？ほとんどのレストランの飲み物はフロア係が対応するのではなく、バーカウンターに客が出向いて注文、金を支払って自席に持ち帰るセルフサービスだが、珍しくここではフロア係がサービスし、後払い。その分、酒が出てくるのが遅い。ほろ酔いで帰り、持参の魚の缶詰めと紙パックの純米吟醸酒2L瓶を開け、寝酒しながら、後追いで記憶を追いかけ、携帯電話に紀行文を打ち込む。日本酒は常温でも、冷やしても、魚でも肉でも、どんな料理にでも合う、便利なお酒だ。オーストラリアの様にお酒が高い国では重宝だ。日本では飲酒運転に厳しく、ゴルフの後の飲酒はタブーだが、オーストラリアはお酒には寛大で、運転時の多少のアルコールは許される。逆にタバコには厳しく、法律で全てのレストラン、カフェ、ホテルのロビーなど、公共の場での喫煙は御法度。煙草もべらぼうに高い。

⑧機上遙か

5 日目は朝 4 時半起き、5 時半に支給されたシリアルとお菓子、牛乳、ジュースの弁当持参でケアンズ空港へ。地方空港にしては新しく、ゲートも 22 と大きい、建物は低く、搭乗ブリッジはない。エアラインはカンタス航空子会社の LCC、ジェットスターで、出発ロビーから階段で降り、歩いて機内へ。格安航空会社とは言っても座席の間隔は変わらない感じだ。座席の幅や間隔が変わらず、定時運航してくれるなら、ボーディングブリッジを使わず歩いたり、機内食などのサービスが有料でも、LCC で十分だ。国際線同様国内線もスッチーはベテランばかり。オーストラリアは人手不足の上に労働組合も強く、働く者の権利もその分良く守られているということか？連邦制の国なので、中央政府の権限は強くないが、経営者・富裕層を代表する自由党と地主・自営農民を代表する国民党の連合と労働者を基盤とする労働党が交互に政権を担っている。歴史的に労働者階級の力が強く、港湾労働者や炭鉱労働者などの長期ストライキも珍しくない。アメリカのカリフォルニアで金鉱が発見されたのを追いかけるように 1851 年、オーストラリアでも金鉱が発見され、ゴールドラッシュが起こり、一攫千金を夢見て採掘者が世界中から殺到した。3 年後、ビクトリア州の金鉱の町バララットの町のユレカというホテルの傍で 1 人の鉱夫の他殺死体が見つかったのを機に労働者の不満が爆発。ホテル・ユレカに火をつけるなどの暴動に発展、安い賃金で長時間働く中国人労働者の排斥も要求、ユリカ砦の反乱と呼ばれる最初の労働運動が起こった。それが移民政策での白人優先、アジア人排除の白豪主義と労働組合結成の端緒となった。その国に今、豊かな中国人が殺到している。

ケアンズから真南のシドニーまで所要時間は 3 時間弱、東京から上海、北京に飛べる時間だ。睡魔に襲われ、気がつけば島の多い、濃い緑の森と白砂の浜辺、水色から碧、紺へと変わるきれいな海岸線に沿って飛ぶ。ほどなく内陸に入ると茶色の低い山が無限に連なり、無人の世界が広がる。再び睡魔に襲われ目覚めると茶色に埃を被ったような広い平地が広がる。直線で大きく画地されているのは農地かと思うが、人家は見当たらない。赤い一面は或いは露天掘りの鉄鉱山だろうか？遠い向こうに白い断崖の様な、アメリカのグランドキャニオンを機上遠く眺めたような景色が、飛行機と一緒に走る。

三度目を覚ますと茶や緑の濃淡にきれいに画地された農地が広がる。点在する碧の湖は灌漑用の溜め池だろうか？間もなく飛行機は高度を下げ始める。集落が現れ、集落が大きな塊となって続き、都市の景観となる。青く蛇行する川が広がり、両岸に建物が連なる。その先、川とは言えないくらいに広がった先端に、曲線の貝殻を何枚か組合せたような、見たことのある建物。その背後に高層ビル群が連なる。有名なシドニーのオペラハウスと CITY だ！さらに南に飛び、濃い緑の森と断崖を洗う海を横目に右旋回、着陸体制を取ると、右手に給油施設に係留されたタンカーと石油コンビナートのプラント、工場群が広がる。海と陸と空が連携した、工業都市シドニーだ。(続く)

◎「世界経済と日本」・・・東大三鷹クラブ第 126 回定例懇談会のご案内

5 月の三鷹クラブ定例会の講師は、中前 忠さん(昭和 33 年入寮)です。

今年に入り株価の低落傾向が続くなど、わが国経済の動きは、はかばかしくありません。日銀は苦渋の策として、マイナス金利を導入しましたが、好結果が見えていないように思えます。一人わが国にとどまらず、中国経済の退潮、原油を中心とした資源安と途上国経済の停滞、加盟国に深刻な火種を抱えたままの EU、そして頼みの米国経済も一進一退と、

いずれの地域でも経済運営に苦慮しています。こうした世界の動向とも関連させて、わが国経済の実情を解明していただけるのは、中前さんを措いてはないと考え、今回、三鷹クラブ定例会としては4度目(最多)の登壇をお願いしました。中前さんのお話は、データに基づき、広く、深く、説得力のある内容であり、専門外の私達にもわかり易く、今回も大いに期待しています。

私の家に古くなった1枚の手拭が残っています。のどかに草を喰む馬の図柄で、開寮10周年を記念する三鷹寮祭で頂いたものです。この寮祭を主催したのが中前委員会で、私も数十人のOBの1人として招待されました。私達の時(昭和27年)、ささやかに始めた寮祭が、盛大なイベントとして開催されるようになったのは、大きな驚きで、かつ喜びでもありました。その時が中前さんと知り合うようになった最初で、以来三鷹寮の仲間として、半世紀を超えるおつき合いが続いています。

三鷹寮同窓組織(寮友会)の結成と寮誌「雑木林」の刊行、東寮解体記念行事、そして三鷹クラブの創設に至るまで、中前さんや三谷 恭正さん(故人)など、昭和30年代前半に入寮した人々が、推進力となって動いていただきました。戦争直後の殺伐とした私達の時代と違い、日本も成長期に入り、地方の新制高校を卒業した若い仲間が、青春をともに楽しみ、盛大な寮祭を企画実行し、新懇を唄うことを含め、思い出多い寮生活を送ることが出来るようになったことが、こうした動きに結びついたと私は思っています。

昭和45年、私は大使館勤務のためロンドンに赴任しました。ほぼ時を同じくして中前さんの英国勤務が始まりました。藤沼 秀夫(27年)、野口 幸洋(28年)、萩原 篤(30年)、林 利蔵(33年)の諸氏と計6人で、在英三鷹寮関係者の会を開いたのも懐しい思い出です。私は4年で帰国しましたが、中前さんは都合12年間国際金融の中枢ロンドンにあって研鑽され、その経験が、今日の中前さんの活躍のバックボーンを形成することとなったに違いありません。重ねて、参加される寮友の皆様とともに有意義な会合であることを願っています。

(昭和26年入寮 平賀 記)

日時：H28年5月23日(月) 18時30分～21時(開場18時、会食18時30分～)

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会費：6000円(誠に申訳ありませんが、諸般の事情で、値上げしました。)

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店SANKOUE Nで、講師参加で行います。



◎留学生と今年もスキーツアー

「最近メールが少なくなりましたね！」と上海の元交換留学生呉さん(09年入寮)から、「彼からプロポーズされました、仕事(眼鏡のJINS)も順調です」と、幸せメール。元気ですか？と心配されるようではいけないと、以下のメール。「(3月19日の)土曜日は留学生6人と辰先輩(66年入寮)の8人で念願のガーラ湯沢日帰りスキー。留学生はチャイニーズ3人とフィリピン、イタリア、ルーマニアが各1人。武漢大学からの子は建築学科の女性。日本語が上手くない子が多く、東京銀行OBで海外の長い辰さんが同行してくれ助かる。🐻が「水商売」を手伝う電源開発の越後湯沢のダムの仕事をする奥村組と地元湯沢のゼネコン森下組から頂いた法人用リフト引換券、🐻のエスティマ4WDが活躍、リフトと交通費は

ただだが、スキーセットとウェアセットが3割引で半日4千円ほど。スキーが初めての2人が入った教室が1時間1900円。ここの所を安く出来れば、もっと気楽に留学生諸君に、日本のウインターライフを楽しんで貰い、日本理解を深めて頂き、交流、日本と東大、三鷹寮に愛着を持って貰えると思う。あいにくの霧雨、シーズン末で雪質も悪く、コンディションは良くなかったが、往復の車の中でも交流を深め、皆さん結構面白かったよう。今日(日曜日)は東大三鷹クラブと東京銀杏会(東京地区の同窓会)合同の国立劇場での新派の観劇会(『遊女夕霧』と『寺田屋お登勢』)を30名ほどの参加で主宰、ネットワーク活動に勤しむ。」と。

翌週土曜日も留学生同行で、GALA湯沢日帰りスキーを楽しむ。日本語が余り通じない学生が多く、今回も元国際バンカー、辰先輩に同行して頂き、助かる。スキー初体験ということでスクールに入ってもらったフィリピンの女の子とインディアンを迎えに行き、初級コースの緩斜面で一緒に滑ろうとしたら、立ち往生している女の子2人。聞けば留学生とスクール「同級生」のタイの女の子だという。フィリピーノは、道中楽しそうに2人で話していた、日本に来て3年目、スキー経験豊富なベトナム人留学生に任せ、インド工科大ハイデラバード校からの留学生と一緒に両睨みで「指導」。インディアンと4人乗りリフトに乗ると中年の白人が同乗。来日2年目のスウェーデン人ビジネスマン。あっちにもこっちにも肌の色や顔つきの違う「スキーヤー」。スカーフ姿のムスリムも。随分外国人スキーヤーが増えた。

◎アルコール抜きでも！では！

4月16日(土)は三鷹寮の新入生歓迎会へ。かっぱ寿司で5人前のすし桶を10個買い、三鷹クラブから差し入れ。駒場のサークルの飲み会で一気に飲みで学生が死亡、裁判沙汰になって以来、教養学部の禁酒令が厳しく、アルコール抜き。それでも寮生は盛り上がっているが、のハートは盛り上がり欠ける。2時間少しいて、院生会、寮委員諸君と5月22日(日)に事務所であらためて飲み会することを決め、早めに帰る。

翌日の日曜日、本郷で、パリ帰りのフランスの会社で働く95年入寮の横田君と、コンサル会社を辞めてパリのMBAに留学する04年入寮の永田君を囲んで、中華料理屋で10人ほどの老若で飲み会。今年から導入された推薦入学制度で合格した(理I・薬学部)高知学芸高校出身、18才の1年生はウーロン茶でお付き合い。事務所で二次会。

◎異才の応援を宜しく！（結びに変えて）

異色の落語家、2003年東大三鷹寮入寮、春風亭昇吉さんこと、國枝明弘さん(岡山県出身、経済学部卒)から、三越前・お江戸日本橋亭での4月28日の公演のお知らせ。その前に歌姫サラ・オレイン(2008年シドニー大学からの交換留学生、言語学専攻)から、同日に世界一のテノール、アンドレア・ボチエリと共演するとの案内。スケジュールが重なり悩ましいが、お好みで応援して頂ければと、それぞれ案内させて頂く。

当日は1年生の大森君から、昇吉君の落語に参加するというので、そちらを優先、日本橋亭へ。三鷹クラブからもカップルが4組、個人が4名参加、盛り上がる。歌姫サラは4月から毎日NHK教育テレビの大人の基礎英会話に出演、好評。英会話の勉強は如何？東大OBには一番不向きな芸能界でリスクテイクする2人の異才の応援を宜しく！（再見）